

令和3年度事業報告書

公益社団法人

全国競輪施行者協議会

事業概要

令和3年度の我が国の社会情勢は、長引く新型コロナウイルス感染症の蔓延により、厳しい状況が続いている。特に令和3年11月末以降はオミクロン株が急拡大し、令和4年1月9日に一部地域で再びまん延防止等重点措置が適用された。

競輪事業においても、3月末までに選手延べ624名の感染が判明し、合計30節58日が開催中止となった。そこで、新型コロナウイルス感染症対策本部の下、全参加選手に対しPCR検査等を継続実施した他、全国8地区の競輪場において感染管理認定看護師による研修会を実施するなど、選手、関係者の感染拡大防止に最大限努めた。

このような現状の中、本年度の競輪車券総売上高は、本場・場間場外等で新型コロナウイルス感染症による影響があったものの、電話・インターネット投票による売上の拡大により、総額9,646億1,344万7,100円と対前年度比で128.6%、実額ベースで2,146億円増と、8年連続で前年度を上回る結果となった。

チャネル販売別にみると、民間ポータルサイトの売上が約5,654億円で前年度比158.6%と大きく増加し、売上全体の58.6%を占めた。またグレード別では、FⅠはナイター競輪の開催増加により115.3%、FⅡはミッドナイト競輪の売上増加やモーニング競輪の開催増加により142.4%、GP・GⅠ・GⅡは昨年度、日本選手権競輪の開催中止があり、前年度比119.2%となった。GⅢについても昨年度3開催が中止となっており、前年度比131.8%となった。

競輪事業が順調に進展しているこの時期をとらえ、競輪の魅力を一層高めるとともに、DXの進展など社会環境の変化に的確に対応するため、映像管理、広報、投票、システムを一元的に取り扱う新法人の設立を決定した。今後、この法人を活用してレース映像等の一元的な管理・運用や民間ポータルサイトとの関係性の再構築などを図っていく。

今後とも、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りつつ、中期基本方針の取組みを着実に推進し、売上1兆円及び施行者収益230億円の達成を目指す。